

# 岡山型学習指導のスタンダード【増補版】

## 授業改善、「一歩先へ！」

- I 学校に求められる役割と本県の状況
- II 授業5（ファイブ）の「一歩先へ！」
- III 「一歩先へ！」進むための単元計画
- IV 「一歩先へ！」を支える指導技術

一歩先へ！

めあて（目標）を示す

学習問題を自分事として捉えさせる

自分で考え、表現する時間を確保する

考えを広げ、深めさせる

目標の達成度を確認する

課題解決の過程を振り返らせる

学習内容をまとめる

学習内容を整理、確認させる

授業の振り返りをする

学習の成果を自覚させる

- V 【参考】「一歩先へ！」進んだ学びの姿

岡山県教育委員会

令和元年 7 月



ももっち うらっち  
岡山県マスコット

# Ⅰ 学校に求められる役割と本県の状況

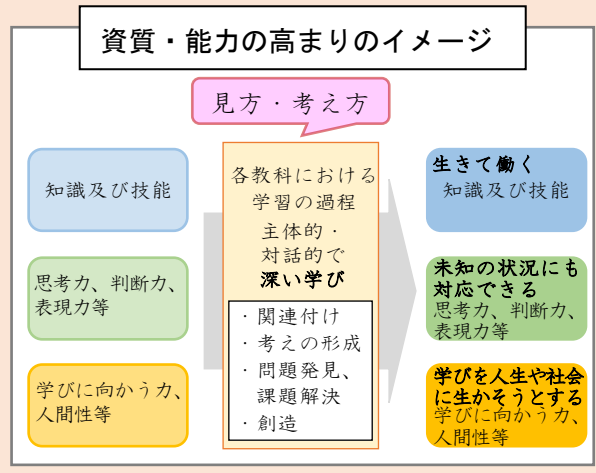


これからの世の中で、児童生徒がよりよく生きるために学校がすべきことって何？

学校教育には、児童生徒に予測困難な社会の変化に主体的に関わり、目的を自ら考え、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる「生きる力」を育むため、資質・能力の3つの柱を育成することが期待されています。

これらは、互いに関係し合いながら育成されるため、教員は児童生徒が興味をもって学ぶ授業を通して、新しい個別の知識や技能を習得させ、それらを活用して思考させることで、概念的な理解の習得を促すとともに、思考力、判断力、表現力等を養い、学びに向かう力を高めていく必要があります。

資質・能力の育成に当たっては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の更なる推進が求められます。



今後は、どのような授業づくりを目指したらいいの？

「岡山型学習指導のスタンダード」に基づく授業改善が進み、全国学力・学習状況調査結果において、全国平均との差は縮小傾向にありますが、国語、算数・数学ともに、活用する力を問う設問に経年的に課題が見られます。

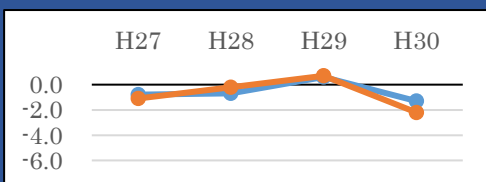
その解決に向けて、単元を計画する際に習得・活用・探究の学習過程に基づき、知識及び技能の確実な習得の場と、それらを活用して思考・判断・表現する場を意図的に設定すること、また活用する力を高める授業においては、習得した知識の関連付けや、各教科に応じた思考・判断・表現の過程を通じて学びを深めさせ、身に付けさせる資質・能力の質を高めることが求められます。



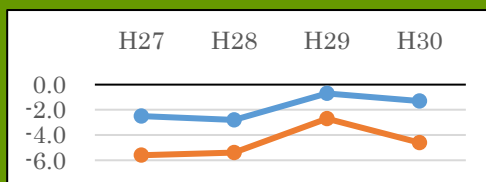
本県の全国学力・学習状況調査における全国平均正答率との差の経年変化

— 習得  
— 活用

## 【小学校】



## 【中学校】



### 先生方の声

- ◇ 「授業5（ファイブ）」に則った授業を行うことにより、1単位時間のタイムマネジメントができるようになったので、さらに授業の質を高めたい。
- ◇ 子供は、指示に従ってやりきる力は確かに付いてきたので、自分から取り組む力も伸ばしたい。
- ◇ 反復練習により身に付けた読み書き計算の力を活用する場を設けたい。
- ◇ 学期末や学年末においても、ゆとりをもった授業で子供の力を高めたい。



つまり・・・、授業改善を「一歩先へ」進めたい！

### 岡山型学習指導のスタンダード3つの視点

#### 〈視点1〉

児童生徒の学力・学習状況の把握と課題の明確化を！

#### 〈視点2〉

課題改善を図る徹底指導の連続を！

**一歩先へ！**

#### 〈視点3〉

学習基盤の確立を！

### 岡山型学習指導のスタンダード【増補版】2つの要素

#### 児童生徒が主役となる授業づくり

- ・ 学習問題を自分事として捉えさせる
- ・ 考えを広げ、深めさせる
- ・ 課題解決の過程を振り返らせる
- ・ 学習内容を整理、確認させる
- ・ 学習の成果を自覚させる

#### 全体を見通した単元計画

- ・ 定着を図る学習内容を確認する
- ・ 児童生徒の実態を把握する
- ・ 評価規準を設定する
- ・ 単元における主たる学習課題を設定する
- ・ 各次における学習活動と達成すべき学習内容を設定し、定着状況を確認するための宿題を課す

**授業の質の向上！**

岡山型学習指導のスタンダードにおける3つの視点の実現を目指し、〈視点2〉「課題解決を図る徹底指導の連続を！」に「児童生徒が主役となる授業づくり」と「全体を見通した単元計画」の2つの要素を加えることで、児童生徒に必要な力を身に付けさせる授業改善を「一歩先へ！」進めることができるんだね。



## II 授業5(ファイブ)の「一歩先へ！」



一歩先へ！

「教わる」から「学ぶ」へ児童生徒の授業観を転換しましょう

- 児童生徒が、授業において自ら「〇〇したい」（知りたい、試したい、解決したい等）と言い出せる学習活動の工夫を単元内に位置付けます。
- その際、問いに対する答えを活用するだけでなく、過程も振り返らせることで、個人としてだけでなく、友だちと協同した課題解決の手法を学び取らせませす。

### 【導入段階】

- 前提となる関数が示された問題を宿題に課し、授業開始時に小テストを行うことで、前時の学習内容を確認させます。
- 必要な前提条件をあえて明示せず、複数の解答が存在する【問題】を提示することで、生徒の興味を引き出すとともに、前時の学習内容を活用させることをねらいます。

### 【本時の目標】

問題の前提となる条件（関数）に着目し、それが適している理由を説明することができる。

一歩先へ！

①めあて（目標）を示す

学習問題を自分事として捉えさせる ▶▶▶ p 7

### 【方法例】

- ・ 導入時における対話や操作等を活用した対象への働きかけ
- ・ 条件不足や過多、児童生徒の認識と事実のずれを利用した学習問題（課題）の提示

### 【本時では】

対話を通して「問い」を引き出します。  
問題を提示し、 $x=4$ の時の  $y$  の値を予想させます。その後、予想できた生徒に「どのように表を見たのか」を問う等やりとりをしながら、全員が自分の予想をもてるようにします。

②自分で考え、表現する時間を確保する

### 【方法例】

- ・ 考える視点の提示（ワークシートの工夫等）
- ・ 意図的な指名
- ・ 考えを広げたり深めたりする問い返し

### 【本時では】

考える視点を提示し、全員が自分の考えをもてるようにします。  
 $y$  の値が異なる予想をした生徒について机間指導を通じて把握します。  
自分が選んだ値について、理由だけでなく、式に表現したり、代入して確認させたりするようにします。

考えを広げ、深めさせる  
▶▶▶ p 7

### 【本時では】

意図的な指名で、生徒が理解しやすい考えから、考えを広げたり深めたりします。  
一次関数とみなした考えから取り上げることで、安心して学習できる場を作ります。  
本時の目標にせまる意見には、考えの根拠等を問い返し、理由だけでなく、式に表現したり、代入して確認させたりします。  
自分とは異なる考え方についても、自分の言葉で説明できるようペアやグループで伝え合う場を設定したり、互いの考えの共通点等を問うたりして、考えを深めさせます。

比例 一次関数 反比例

【問題】  
 $x$  の値に対応する  $y$  の値は、次の表のようになります。  
このとき、 $x=4$  のときの  $y$  の値を求めなさい。

$x$	...	2	3	4	...
$y$	...	18	12	...	...

予想

Aさんの考え  
 $x=4$  のとき、 $y=6$  になる  
Bさんの考え  
 $x=4$  のとき、 $y=9$  になる

表を横に見る

表を縦に見る

なぜ、2つあるの？

めあて

なぜ、2種類あるのか？  
その理由をわかりやすく説明しよう。

$y=6$  になる場合

関数：一次関数 ← 変化の割合が一定

理由： $x$  の値が1増えるごとに  $y$  の値が6ずつ減るから

一次関数と考えたら、 $y=6$  になるの？

変化の割合は-6だから、  
式は、 $y = -6x + 30$   
 $x=4$  を代入すると、  
 $y=6$  になるから正しい。



○単元の目標

具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見出して表現し、考察する能力を養う。

○単元の計画

- 【一次】 伴って変わる二つの数量の関係について調べる。
- 【二次】 一次関数の特徴を表、式、グラフで捉える。  
二元一次方程式を一次関数とみなす。
- 【三次】 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察する。(本時)

【定着に向けた取組】

- 本時で扱った問題と同質の問題を適用題として取り組ませる。
- マイナスの数値を扱ったり、 $x$ が連続しない値を示したりする発展的な問題をチャレンジ課題として取り組ませる。一方、定着が難しい生徒には、補充学習を通じて基礎・基本の定着を図る。
- 単元末テストを実施し、定着具合を確認する(定期考査でも出題する)。

一步先へ!

授業と家庭学習をつなぐ視点として、本時の学習内容の定着と、次時の学習の導入に資する課題を設定することが大切です。

一步先へ!

③目標の達成度を確認する

課題解決の過程を振り返らせる ▶▶▶ p 8

【方法例】

- ・自分と異なる考えを解釈したり、表現したりする場の設定
- ・学習の過程を生かす場の設定  
(例) ・条件や数値を変更した問題の提示  
・試技の場の設定

【本時では】

数値を変更し、学習過程を生かす場を設けています。  
考えられる $y$ の値が小数であっても、学習過程を生かしながら最後まで取り組むことができるかどうかを確認します。

**y = 9 になる場合**

関数： 反比例 ←  $x$ と $y$ の積が一定

理由：  $x$ の値と $y$ の値の積がどれも36になるから

反比例と考えたら、 $y=9$ になるの？

$x$ と $y$ の積が36だから、  
式は、 $y = \frac{36}{x}$   
 $x = 4$ を代入すると、  
 $y = 9$ になるから正しい。

**説明のパーツ**      **ポイント**

①関数を選ぶ。      表を横や縦に見て特徴を見つけ、説明する。

②理由を説明する。      その関数が正しいかどうかを説明する。

③式を求める。

④代入して確認。

**【問題】**  
 $x$ の値に対応する $y$ の値は、次の表のようになります。このとき、 $x = 5$ のときの $y$ の値を予想し、そのようになる理由を説明しなさい。

$x$	...	3	4	5	...
$y$	...	16	12	...	...

数学の用語を使うと伝わりやすい。

**新たな疑問**  
 $y$ は $x$ に 比例 しないのかな？

宿題  
.....  
.....  
自主学習  
テーマ  
.....

【方法例】

- ・振り返りの視点の提示  
(例) ・2種類ある理由を、どのように考えたか  
・表をどのように見て、関数を判断したか  
・説明の記述において、どう表現したか

⑤学習内容を振り返る

【本時では】

記述を通して定着具合をメタ認知させます。  
前提となる関数について、表を基にどのように判断したのか相手に的確に説明するために、既習事項を活用してどのように表現したか等を振り返らせることで、定着具合を自己認識させます。

学習の成果を自覚させる

▶▶▶ p 9

④学習内容をまとめる

学習内容を整理、確認させる ▶▶▶ p 9

【方法例】

- ・板書に基づいた問題解決の過程の要約
  - ・各過程における要点の明確化
- ※対話を通じ、児童生徒の言葉を生かしながら、整理、確認します。

【本時では】

問題解決の過程の共通点を見付け、一般化しています。  
2つの値の場合について、発表させた後、問題解決の過程を一般化し、板書します。

### Ⅲ 「一歩先へ！」進むための単元計画



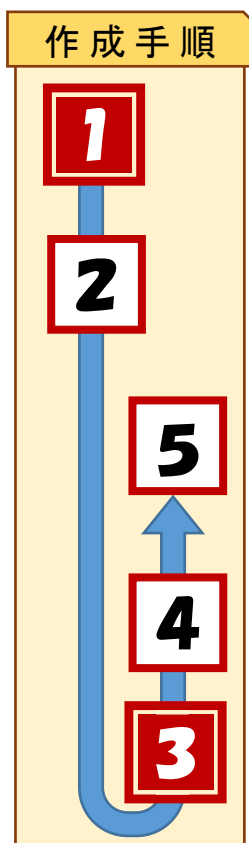
一歩先へ！

#### 設定したゴールから逆算し、見通しのある計画としましょう

- 学習指導要領を基に、単元で児童生徒が身に付けるべき学習内容を確認するとともに、児童生徒の実態を踏まえ、達成度を把握する評価規準を設定し、主たる学習活動を計画します。
- 各次で達成すべき学習内容を設定し、授業に加えて宿題でも定着度を確認し、1人で解けるようにすることが大切です。

※「ゴール」は、単元終了時に学習内容を身に付けた児童生徒の姿とします。

◇ 単元を見通し、評価方法、各時の関連や指導の重点を工夫しましょう。



定着を図る学習内容を確認する。

児童生徒の実態を把握する。

各次における学習活動と達成すべき学習内容を設定し、定着状況を確認するための宿題を課す。

単元における主たる学習課題を設定する。

評価規準を設定する。

#### 単元を見通す計画のよさ

##### 【ゴールの明確化】

- 児童生徒が身に付けるべき学習内容と評価規準を明らかにすることで、一貫した指導を実施することができる。

##### 【実態に応じた各時間の配置】

- 各時間の位置付けや相互関係が明確になり、学習内容を関連付けた指導ができる。
- 児童生徒の実態を踏まえ、学習内容定着に向けた指導の焦点化や資質・能力の育成に向けて、各時間を配置することができる。

##### 【単元全体を通して】

- 身に付けるべき学習内容と単元終了後の児童生徒の姿を照合することで、単元計画、各次、各時の指導の有効性を検証でき、一層の指導の改善につなげることができる。

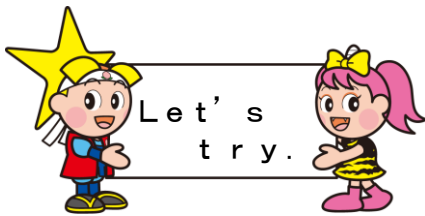


単元全体を見通す視点をもつことで、1時間の工夫をさらに生かすことができ授業改善を「一歩先へ！」進めることができそうだね。

単元計画の際に大切なことは何？

単元終了時の学習内容が身に付いた児童生徒の姿を具体的に表すこと、つまり、「ゴールイメージ」を明確にすることだよ。  
次ページを活用して単元計画を立ててみよう。





## 全体を見通した単元の概要を作成し、活用しましょう

- 単元全体を概観し、既存の資料も活用しながら学習内容の定着に向けた流れを把握します。
- 単元の学習中も計画を参照して、児童生徒が学習内容の定着に向かっているか確認し、必要に応じて修正します。
- 単元終了後は、児童生徒の姿から、計画の妥当性を検証し、必要に応じて改善します。

### 作成手順

1

2

5

4

3

#### 定着を図る学習内容を確認する。

学習指導要領に示された「内容」を確認する。

#### 児童生徒の実態を把握する。

当該単元に係る既習事項、各種調査結果、レディネステスト、観察等で把握する。

児童生徒の  
学習活動の  
流れ

#### 各次における学習活動と達成すべき学習内容を設定し、定着状況を確認するための宿題を課す。

- ・単元における主たる学習課題の解決に必要な力を身に付けるため、習得と活用を関連付けた学習計画を立てるとともに、各次、各時で達成すべき学習内容を設定する。
- ・定着状況を確認する宿題について、「いつ」「何を」「どのように」課し、「どう評価するか」を計画する。

第一次  
学習課題  
の把握  
第二次  
学習課題  
の解決  
第三次  
学習内容  
の定着  
家庭学習  
宿題＋  
自主学習

#### 単元における主たる学習課題を設定する。

評価規準に基づいた、単元を通して解決を図る課題を設定する。

成果物等  
の作成

#### 評価規準を設定する。

学習内容、児童生徒の実態、教材の特徴を踏まえ、単元末における児童生徒の具体的な姿で設定する。

自己評価

# IV 「一歩先へ！」を支える指導技術

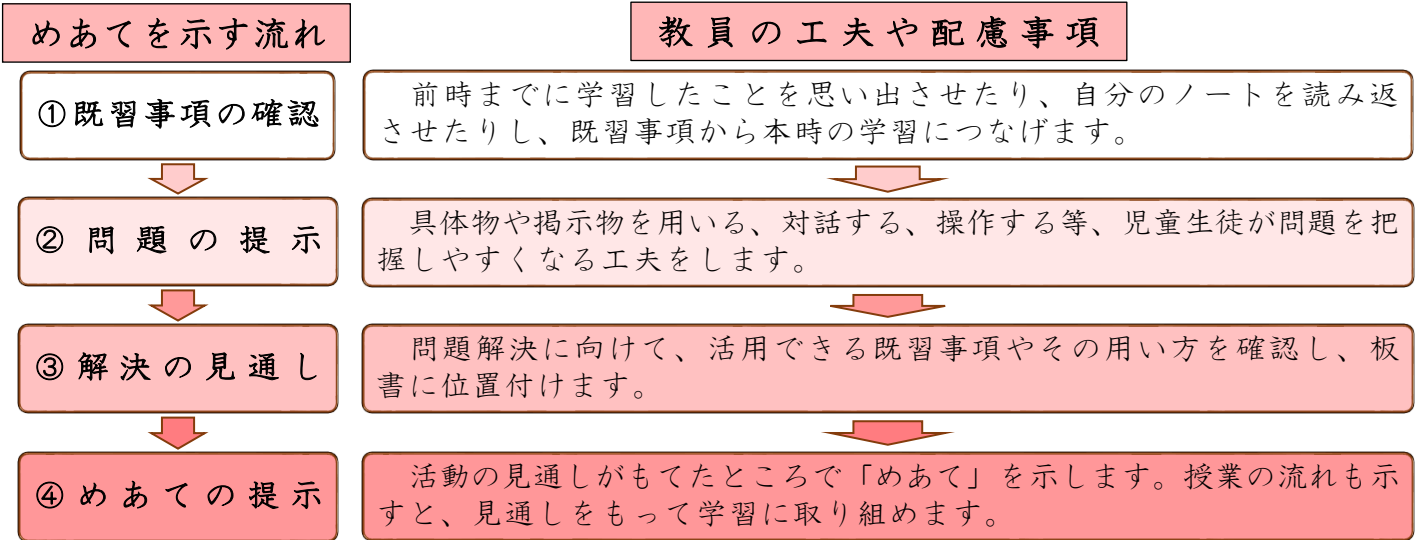


## <授業5 ①>めあて（目標）を示す

## 学習問題を自分事として捉えさせる

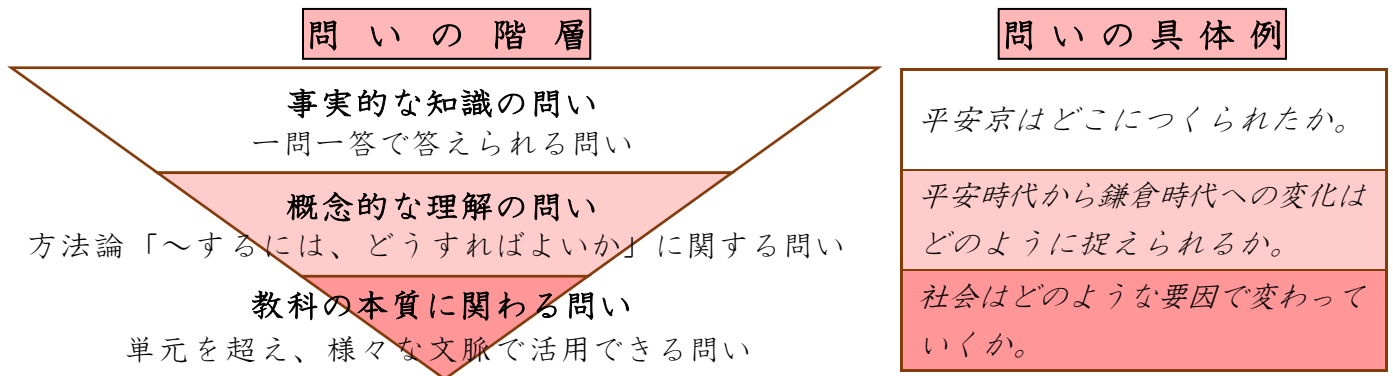
◎ 既習事項と関連付け、解決の見通しをもたせます。

・児童生徒が、工夫をしたら解決できそうだと思うことが大切です。



◎ 本時の目標に応じた問いを提示します。

・思考力、判断力、表現力等を育成する授業では、中心となる発問は、概念的な理解や教科の本質に関わる問いを用います。



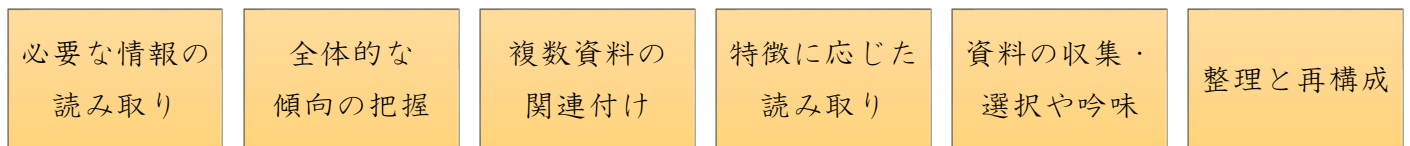
## <授業5 ②>自分で考え、表現する時間を確保する

## 考えを広げ、深めさせる

◎ 児童生徒が問題に対する考えをもてるよう教材を工夫します。

・発達段階に応じて、テキスト、図表、統計、実物等の資料を適切に準備します。

### 資料を取り扱う際の視点（例）





◎ 考えを共有したり、比較・検討したりします。

・本時の目標を達成できるように、発表や発言を価値付けながら、児童生徒の発言をつなぎます。

**考えを「広げる」問い返し（例）**

- 予想** 「～さんの考えの続きが分かりますか？」
- 再生** 「～さんの考えを隣同士で説明し合ひ  
ましょう。」  
「～さんの説明がもう一度言えますか？」
- 要約** 「～さんの考えはつまりどういうこと  
ですか？」
- 発見** 「～さんの考えの良いところはどこ  
ですか？」

**考えを「深める」問い返し（例）**

- 理由** 「どうしてそう考えましたか？」
- 方法** 「どうやって考えましたか？」
- 事実** 「どういうことですか？」
- 内省** 「考えてみて、どう思いましたか？」
- 着想** 「どうやって思いつきましたか？」
- 収束** 「共通しているところはありますか？」
- 置換** 「～の場合は、どのように言えますか？」

**共通で使える問い返し（例）**

- 推測** 「～さんの考えはどうしてうかんだと思いますか？」
- 共感** 「～さんの考えの良いところが分かりますか？」
- 補助** 「～さんの考えのヒントが言えますか？」

・目標に応じた交流場面を設定し、意図的に交流させます。

ペアやグループ	学級全体
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明するに当たり、話し手や聞き手のポイントを明確に示します。</li> <li>・ 時間を決めて、交流させます。</li> <li>・ 交流後、自分の考えを再考したり、改善したりする時間を確保します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒から考えを引き出したりつないだりして、板書に位置付けます。</li> <li>・ 考えのよさや事柄の本質を探らせることができるよう、多様な考えを比較・検討させます。</li> <li>・ 全員が自分の考えを広げることができるよう、意図的に指名します。</li> <li>・ 考えを深め、本時の目標を達成することができるよう、問い返しやゆさぶりの発問をします。</li> </ul>

**<授業5 ③> 目標の達成度を確認する**

**課題解決の過程を振り返らせる**

◎ 児童生徒自身が確認できるように、問題や活動に取り組む場を設定します。

・本時の学習内容と解決の過程が同様で条件を変えた問題や、再度本時の主たる活動を提示し、一人で取り組んだ際の達成度を確認し、必要に応じた指導をします。

**取り組ませ方（例）**

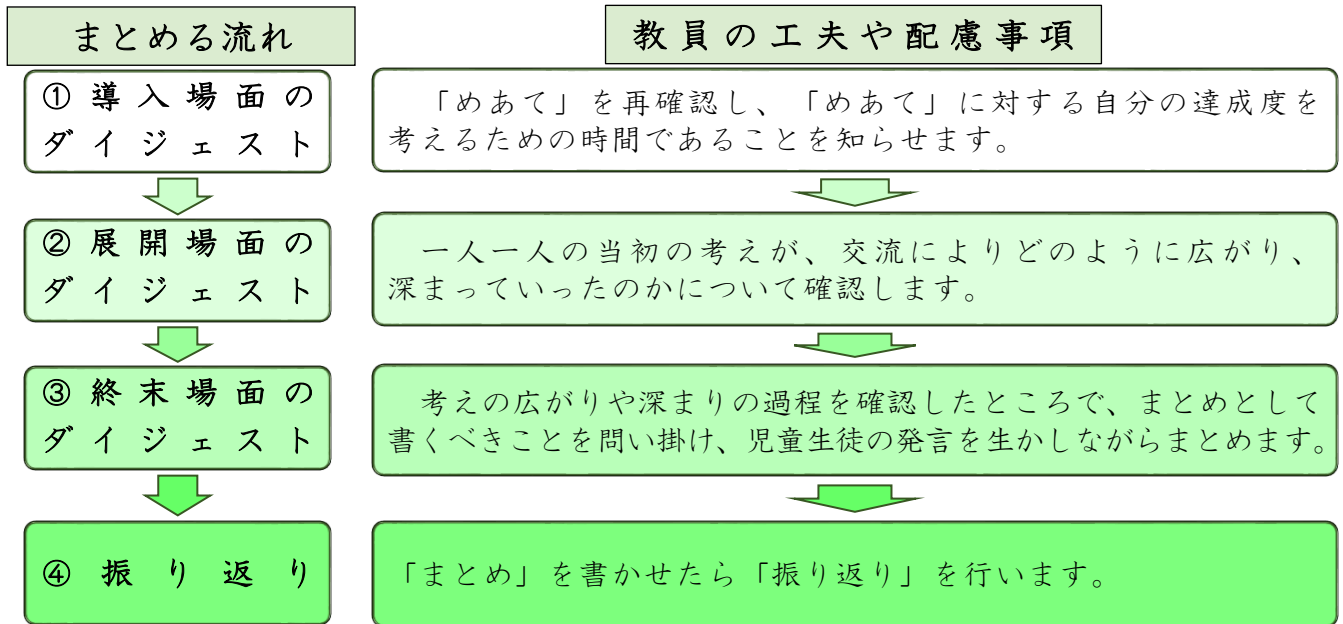
- 学習した問題との共通点や相違点を整理し、学習した考え方を基にして、解いたり表現したりする。
- 自分が思い付かなかった考え方を使い、解いたり表現したりする。
- 新たに獲得した考え方を使い、解いたり表現したりする。
- 集団で練り上げるなどしたよりよい考え方を使い、解いたり表現したりする。
- 既習事項との関連付けを意識しながら、解いたり表現したりする。

※習得した知識及び技能を活用する問題に取り組ませることで、児童生徒の活用する力が高まると同時に、知識及び技能の定着がより確かなものになります。

<授業5 ④>学習内容をまとめる

学習内容を整理、確認させる

- ◎ 教員が主導し、本時の要点を理解できるよう、学級全体で、児童生徒に学習の過程を振り返らせませす。
- ・板書に基づき、主たる学習活動やそこでの学びについて、児童生徒の意見や考えを取り上げながら整理、確認します。



導入に関すること

- 問題提示・めあて
- 児童生徒との確認事項


展開に関すること

- 児童生徒の学びの過程
- 思考の流れ など

終末に関すること

- 適用問題など
- まとめ

1単位時間をダイジェストで振り返るには、  
構造化された板書だと分かりやすいね！



<授業5 ⑤>授業の振り返りをする

学習の成果を自覚させる

- ◎ 自らの学びと関連付けて充実感、達成感、自己有能感を実感させます。
- ・感想のみにしないためには、学習内容と関連付けることが大切です。

視点1 具体的に身に付けた学習内容

「〇〇を用いると、△△は□□のように解けることが分かった。」

視点2 既習事項との関連付けや一般化

【関連付け】「以前学習した暖かい土地では、気候を生かした産業を発達させていたが、今日学習した寒い土地でも、同様に気候を生かした産業を発達させていた。」

【一般化】「地域によって、気候や地形は異なるが、それらを生かしながらくらしを営んだり、産業を発展させていることは共通していた。」

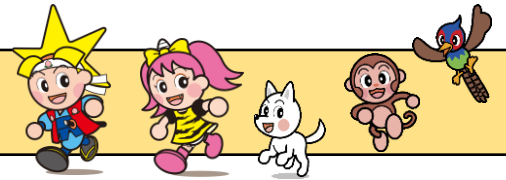
視点3 自己変容の自覚

「授業の前は〇〇について、△△だと考えていたが、学習した結果、□□だと分かった。」

視点4 他者との交流による自覚

「全体交流をしたことで、〇〇だけでなく、△△や□□とも考えられることが分かった。」

# V 【参考】「一歩先へ！」進んだ学びの姿



関連付けにより、知識及び技能を活用できる状態にしましょう

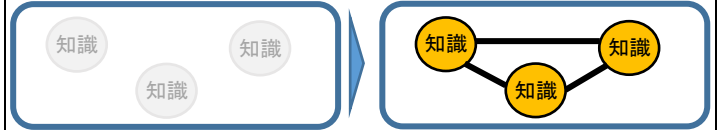


一歩先へ！

- 児童生徒が既有的知識及び技能を相互に関連付けたり、組み合わせたりしながら、構造化や身体化できる場を設定することが大切です。

## ① 【知識及び技能】

個別の知識及び技能同士を関連付け、概念的な知識及び技能へと構造化する



【中学校第2学年社会科 江戸幕府】

- ・大名配置は、親藩や譜代を要所に、外様を縁辺部に配置した。
- ・武家諸法度で大名の築城や結婚を統制した。
- ・参勤交代で、1年毎に江戸と所領を往復させた。
- ・幕府は大名が反抗できないように統制した。

## ② 【知識及び技能】

個別の知識及び技能を中心概念と関連付け、構造化する



【小学校第5学年家庭科 寒い季節の暮らし】

- ・空気の層がある（中心概念）。
- ・空気が入った袋越しに氷を触っても冷たくなかった。
- ・冷たいものを触る時、手袋を重ねると冷たくなかった。
- ・重ね着をすると、間の空気が増えるので暖かくなった。
- ・ジャンパーを着ると、風を遮り暖かい空気が動きにくくなるので暖かかった。
- ・暖かい空気の層をつくり、それを逃がさず、冷たい空気を入れないことが冬季の快適な着方である。

## ③ 【知識及び技能】

個別の知識及び技能をつなぎ合わせ、連動した一連の体系とする

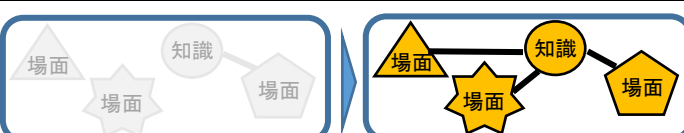


【小学校第3学年音楽科 リコーダー】

- ・正しい姿勢（重心、腹部に力等）ができた。
- ・左手を上にして持つことができた。
- ・指の腹でしっかりと穴を押さえることができた。
- ・曲に応じた息の使い方（タンギング、音の高低による息の吹き込み方の違い等）ができた。
- ・吹き始めと吹き終わりの力の加減ができた。
- ・練習を重ね、一連の演奏ができた。

## ④ 【思考力、判断力、表現力等】

既有的知識及び技能を、様々な場面や状況と関連付け、汎用的な知識及び技能とする



【中学校2年保健体育科 柔道】

- ・柔道で技をかけるには、重心の軸を安定させることが大切だ。
- ・サッカーで強いキックをするにも、重心の軸がしっかりしていることが大切だ。
- ・野球の守備では、左右どちらでも動けるよう重心を保つために、両足をやや内側に向けておくことが大切だ。
- ・スポーツでは、次の動きに備えて重心を調整することが大切だ。

## ⑤ 【学びに向かう力、人間性等】

知識及び技能を目的や価値、手応えと関連付け、行為が持続したり安定したりする



【小学校6年総合的な学習の時間 学区を安全に】

- ・学校周辺で自分たちの安全のため、交通事故が起こりそうな場所を調べ、見通しが悪いなどの環境要因に気付いた。
  - ・教室移動の際に、校内にも曲がり角などの危険な箇所があることに気付いた。
  - ・他の学年も校内で安全に過ごせるように、教科等間の指導を関連付けながら標語、グラフ、ポスターを作成し、啓発活動を実施した。
- （自分の安全→みんなの安全へと目的が高まった）

参考文献：田村学『深い学び』2018年、東洋館出版社  
<http://www.toyokan.co.jp/book/03/b357544.html>

※ 事例部分は同書に掲載の事例を解釈し、再構成しているが、事例①、⑤については、県教育委員会で独自に作成した。

